

公立大学法人静岡文化芸術大学 平成 28 年度計画 用語解説

(五十音順)

用 語	解 説
アウトソーシング	外注、外製(がいせい)ともいい、企業や行政の業務のうち専門的なものについて、それをより得意とする外部の企業等に委託すること。
アクティブラーニング	教員が学生に一方向的に知識を教授する講義型ではなく、学生が主体的に問題を発見し、解を見出していく能動的な学習方法の総称。アクティブラーニングを取り入れた授業は、学生参加型授業、共同学習、探求学習、能動的学習、経験型学習、問題解決学習などの名称でよばれ、実際の授業は、グループワーク、ディスカッション、リフレクション（自己の活動内容を振り返って評価すること）、ディベートなどにより進められる。
e ラーニング	e ラーニングの“e”は、electronic（電子的な）の意味であり、機器としてはパーソナルコンピュータ、CD-ROM、DVD-ROM、デジタルテレビ、携帯端末（携帯電話、PDA（携帯情報端末）等）などがある。これらの機器と併せて、インターネット、ビデオ配信等の情報通信を活用した学習形態をいう。
インターンシップ	学生が在学中に、企業等において自らの専攻や将来希望する職業に関連した就業体験を行うこと。
CAP 制(キャップ制)	<p>単位の過剰登録を防ぐため、1年間あるいは1学期間に履修登録できる単位の上限を設ける制度。</p> <p>日本の大学制度は単位制度を基本としているが、大学設置基準上 1 単位は、教員が教室等で授業を行う時間に加え、学生が予習や復習など教室外において学習する時間の合計で、標準 45 時間の学修を要する教育内容をもって構成されている。また、これを基礎とし、授業期間は1学年間におよそ年 30 週、1 学年間で約 30 単位を修得することが標準とされ、したがって大学の卒業要件は 4 年間にわたって 124 単位を修得することを基本として制度設計されている。</p> <p>しかし、学生が過剰な単位登録をして、3 年で安易に 124 近くの単位を修得し、結果として 45 時間相当に満たない学習量で単位が認定されているという現象が生じたことから、大学設置基準で「大学は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が 1 年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるように努めなければならない」と規定された。</p>
クォータ学期制	<p>学校の 1 年間の四つの授業実施期間に分ける制度。学期の区切りや休暇の配分は学校によりさまざまであるが、4～5 月を 1 学期、6～7 月を 2 学期、10～11 月を 3 学期、12～2 月を 4 学期とし、2 学期と 3 学期の間に夏季休暇、4 学期中の 12 月末から 1 月初めに冬季休暇、4 学期の後に学年末休暇（春休み）を挟むのが一般的である。</p> <p>日本の大学の多くは 4 月入学で、そのほとんどが 2 学期制を導入している。そのため、欧米の大学の 8 割が実施している秋入学とは学期の区切りにずれがあり、留学希望者や研究者の受け入れがむずかしく、日本の学生が欧米の大学の夏休み（6～8 月）に行われるサマースクールに参加することなどにも不都合な点があるなど、課題がある。</p>

用語	解説
GPA 制 (グレード・ポイント・アベレージ)	<p>アメリカにおいて一般的に行われている学生の成績評価方法の一種。一般的な取扱いの例は次のとおりである。</p> <p>①学生の評価方法として、授業科目ごとの成績評価を 5 段階(A、B、C、D、F)で評価し、それぞれに対して 4・3・2・1・0 のグレード・ポイントを付与し、この単位当たり平均(GPA)を出す。</p> <p>②単位修得は D でも可能であるが、卒業のためには通算の GPA が 2.0 以上であることが必要とされる。</p> <p>③3 セメスター(1 年半)連続して GPA が 2.0 未満の学生に対しては、退学勧告がなされる。(但し、これは突然退学勧告がなされるわけではなく、学部長等から学習指導・生活指導等を行い、それでも学力不振が続いた場合に退学勧告となる。)</p> <p>なお、このような取扱いは、1 セメスター(半年)に最低 12 単位、最高 18 単位の標準的な履修を課した上で成績評価し、行われるのが一般的である。</p>
サマースクール制度	<p>アメリカをはじめとする多くの大学では、9月から12月を秋学期、1月から5月を春学期とし、6月から8月の2か月間が夏休みとなる。この学期のシステムに習い、6月から8月の間にサマースクールが開催される。高校生・大学生にとっては本学期に取得できなかった単位の再履修、もしくは来季の科目を先取りして、次の学期の負担を減らす、という役割を果たしている。また、多くの大学はその大学の学生ではない学生や留学生に来てもらえるプログラムを開講している。</p>
ステイクホルダー	<p>企業・行政・NPO等の利害と行動に直接・間接的な利害関係を有する者を指す。日本語では利害関係者という。具体的には、消費者(顧客)、従業員、株主、債権者、仕入先、得意先、地域社会、行政機関など。</p>
SA(スチューデント・アシスタント)	<p>TAとは区別して、大学院生でなく、学士課程の学生を教育の補助業務に携わらせること。</p>
大学入学希望者学力評価テスト(仮称)	<p>現在の大学入試センター試験の後継とされるテスト。現在の入試でも行われている「教科型」に加えて、「合教科・科目型」「総合型」の問題を組み合わせ出題され、評価も1点刻みではなく段階別評価を想定。このテストでは、「思考力・判断力・表現力」が評価の中心に変わるが、具体的なことはまだ明らかではない。</p>
多文化共生	<p>複数の他者の民族、他者の文化の相互承認と共存が可能になっている社会の状態のこと。</p>
定住外国人	<p>一般的に、日本社会に長期間、生活の本拠を持ちながら日本国籍を有しない者という意味。外国人旅行者や1年～3年程度のスパンで日本で働く人(たとえば企業の駐在員や技能実習生)は除く。</p>
TOEIC(トイック)	<p>Test of English for International Communicationの略称で、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストであり、世界約60ヶ国で実施されている。</p>
認証評価機関	<p>国公私の全ての大学、短期大学、高等専門学校は、定期的に、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価(認証評価)を受けることとなっており、この評価機関をいう。財団法人大学基準協会、独立行政法人大学評価・学位授与機構などがある。</p>
パブリシティ	<p>マスメディアに流される、製品やサービスに関する報道</p>

用語	解説
避難所運営ゲーム	避難所運営を皆で考えるためのひとつのアプローチとして静岡県が開発したものの。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲーム。
F D (ファカルティ・ディベロップメント)	教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。
副専攻 (主専攻)	主専攻は主として学ぶ領域(自分の所属する学部・学科)、副専攻はサブで学ぶ領域(学部・学科とは別に用意された独自カリキュラム)のこと。たとえば文学部に入学したとして、主専攻は文化学だが、副専攻として海外コミュニケーションを取るなど。大学によってはこの主専攻・副専攻というものがないところもある。
ふじのくに地域・ 大学コンソーシアム	高等教育機関相互の連携を深め、また、行政、産業界、非営利活動法人などと広範なネットワークを形成し、県内高等教育機関の教育力・研究力の一層の向上を図るとともに、それぞれの主体が一体となって、地域社会の発展に寄与していくことを目的とし、本県の大学間連携組織である「大学ネットワーク静岡」を発展的に改組し平成26年3月27日に設立。
ポータル	元々ポータルとは港(port)から派生した言葉で門や入口を表し、転じてサイバービジネスの世界では、ユーザーがインターネットを利用する際の入り口、または拠点として必ず利用する場所(ウェブ)をいう。また、社内ポータルは、主に社内のさまざまなアプリケーションへの入り口となるWebサイトのこと。
リカレント教育	経済協力開発機構(OECD)が1970年代に提唱した、生涯学習の制度的形態。回帰教育、循環教育などとも訳される。社会に出てからも学校または教育・訓練機関に回帰する(戻ってくる)ことが可能な教育システム・体系のこと。広義には社会人が人生の途上でさまざまな形で学ぶことを意味するが、狭義には高等教育機関など整った教育機関で教育を受けることを意味する。
W i F i (ワイファイ)	無線でネットワークに接続する技術(無線LANの規格のひとつ)

※ 文部科学省資料、本学資料のほか、インターネットから作成